

みえ県都の顔となり、地域の活力を引き出し、 災害にも強い空間への再生に向けて ～津駅における賑わいの社会実験の実施～

三重県 県土整備部 道路企画課

1. はじめに

三重県は日本のほぼ中央の太平洋側に位置し、南北約 170km、東西約 80km と南北に細長い県です。県内には緑深い山々や溪谷から海へとそそぐ清流、大小の島々などがあり、古くから人と自然が共生し、日本の原風景として悠久の歴史を紡いできました。特に日本人の心のふるさととして親しまれる「伊勢神宮」は、日本の精神性、豊かな文化・伝統に触れることができる場所です。加えて、世界遺産「熊野古道」やリアス式海岸、伊賀忍者発祥の地など、美しい自然や名所旧跡が数多くあり、そうした自然と文化、海山の幸に恵まれていることから、美し国（うましくに）といわれてきました。

また、県内には伊勢湾沿いに、人口 10 万人を超える都市が適度な間隔で分布しています。北部では世界的な自動車メーカーを中心とした製造業が集積し、三重県や中部圏の経済を牽引しており、南部では「伊勢神宮」や「熊野古道」など国内有数の観光地となっています。

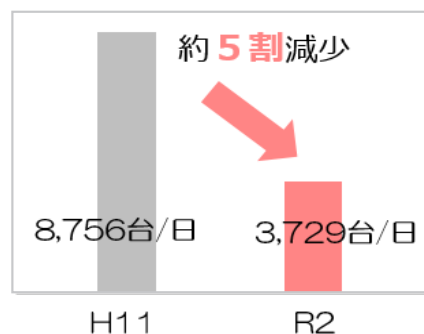
本稿で取り上げる津駅のある津市は、三重県の中央に位置し、人口約 28 万人の県庁所在地です。年間を通じて温暖な気候で、中京圏と近畿圏の結節点でもあることから、道路網、鉄道網、空港アクセス航路など交通アクセスに恵まれています。

2. 津駅周辺の現状と課題

現在の津駅周辺の空間が形成されてからおよそ半世紀が経過し、津駅東口通り（県道津停車場線）の自動車交通量は 3,729 台 / 日と 20 年前に比べ半減しています（図－1）。通勤時間帯の駅周辺の人通りはあるものの、日中の人通りは非常に少なく、活気をなくしており、県庁所在地の玄関口としては非常に寂しい状況にあります。このため、令和 3 年度から国や津市と連携しながら、津駅周辺の道路空間が 10 年後、20 年後の未来を見据えた「みえ県都の顔となり、地域の活力を引き出し、災害にも強い空間」となるように様々な検討を進めており、令和 4 年 3 月に津駅周辺道路空間の整備方針を策定しました（図－2）。整備方針には、「公共交通の利便性の強化、浸水時の災害時の対応の強化」「歩行者の賑わいや滞留機能の強化」「東西連携の強化」「駅周辺の回遊性の強化」などが位置づけられており、そのひとつである「歩行者の賑わいや滞留機能の強化」に向け、津駅東口通りの歩行空間を広げる、賑わいの社会実験を実施しました。



写真－1 津駅の風景



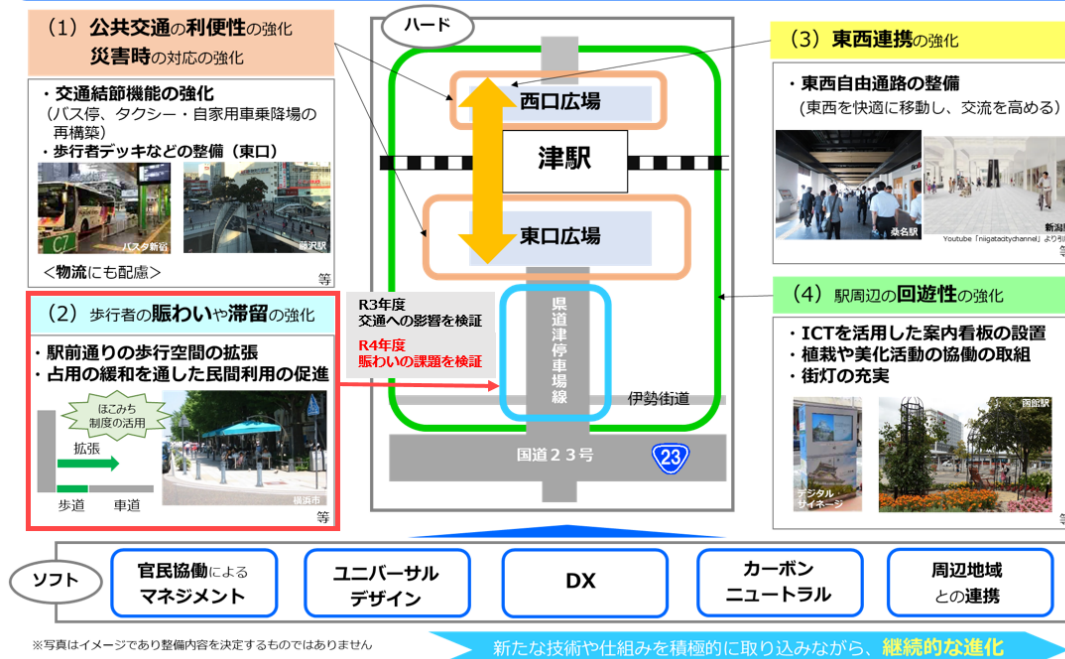
図－1 自動車交通量の推移

令和4年3月津駅周辺道路空間の整備方針を策定



地方都市が主役のポストコロナ時代において

みえ県都の顔となり、**地域の活力**を引き出し、**災害にも強い**空間へと再生



図－2 津駅周辺道路空間の整備方針

3. 賑わいの社会実験

(1) 令和4年度の実験内容

賑わいの社会実験は、三重県が実施主体となり、令和4年10月19日(水)～10月30日(日)までの12日間(時間帯10:00～18:00)実施しました(写真－2)。社会実験の内容は、津駅東口通り(県道津停車場線)において、現状6車線の車道を4車線(片側3車線を2車線)に減少させ、その空いたスペースにキッチンカーや店舗の出店、憩いの空間としてテーブル・イスを配置しました(図－3、4)。社会実験のターゲットは、現在の津駅周辺の利用状況を考慮し、平日は津駅周辺のオフィスワーカー、土日はファミリー層とし、土日にはキッチンカー等の出店だけでなく、イベント(働くクルマや津市出身のアイドル出演)も企画することで、賑わいの創出を図ることにしました。

また、津駅東口通りの車線数を6車線から4車線に減少させることの周辺自動車交通等への影響については、令和3年7月12日(月)～7月20日(火)に車線数を4車線に減少させる社会実験を実施しており、ビデオカメラ観測による交通量変化や混雑状況の確認、ETC2.0のデータによる速度変化や加速度変化の分析、道路利用者へのヒアリング等を行い、周辺交通に大きな問題がなかったことを確認しています。同時にアンケートで「拡張した歩道空間活用のニーズ調査」を実施し、キッチンカー等の出店やイベントスペース、歩行者のための憩いのスペースを求める回答が多数となり、令和4年度の社会実験は、このアンケート結果を参考にして実施しました。

地元調整については、津市と連携して進め、土日のイベントについては、警察や消防、津市出身のアイドルの方と打合せをし、内容を詰めていきました。地元の学生である三重短期大学の学生には津駅の現状を講義の中で説明し、学生からは現地調査に基づく提案をしていただきました。また、津商業高校の生徒には、津をテーマに社会実験の横断幕を8種類デザインしていただくなど、若者にも興味を持ってもらえるようにしました。

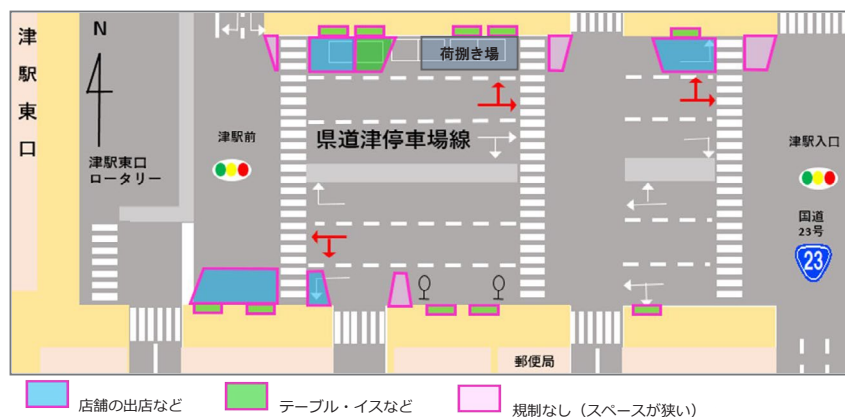


図-3 社会実験の平面図



写真-2 社会実験の状況 (全景)

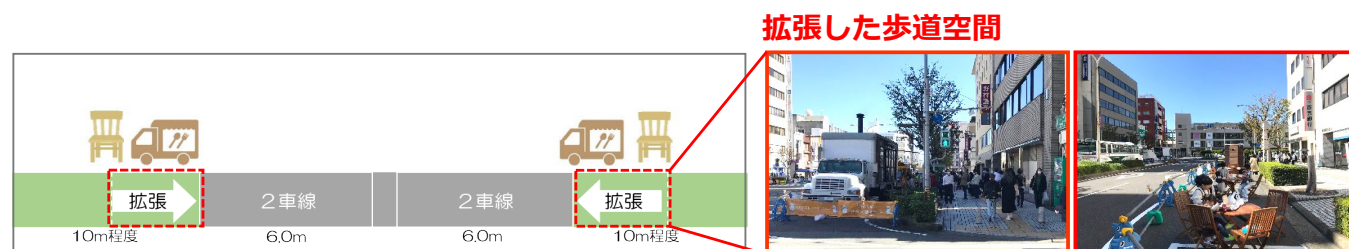


図-4 横断図と拡張した歩道空間

(2) 苦労した点・工夫点

このような社会実験は三重県として初めてのことで手探りのなか進め、社会実験の企画・運営・出店交渉・広報は全て職員で実施しました（写真-3）。苦労もありましたが、楽しみながら進めていくようにしました。その中で特に注力したのは、警察との協議・調整、出店者の直接交渉・確保、情報発信方法です。

警察との協議については、道路使用許可申請をする前に、県警本部や地元警察署と複数回の事前打ち合わせをしました。県警としてもこのような実験が初めてであり、拡張した歩道空間に歩行者を入れることの安全性について十分に対策するように意見があったため、イスを設置する際には利用者が車道側に背中を向けないように配置し、キッチンカー等の商品の販売窓口についても、必ず歩道側に向けるようにしました。さらに、仮設の防護柵についても、車両の誤進入を防止するため、交差点付近については単管バリケードではなく、置き基礎のガードレールを設置し、より来場者の安全性を高めるようにしました。

出店者の直接交渉・確保については、社会実験期間の約2週間の間、出店店舗が日替わりになるように（味・ジャンルがかぶらないように）、さらに、ランチ時間帯には食事系、夕方にはスイーツ系が出店できるように、スケジュール管理をしました。キッチンカー事業者にとっても津駅前が出店することは初めてのことで、どれくらいの集客が見込めるか未知数のなか、粘り強く交渉をし、「津駅を盛り上げていきましょう」を合言葉に多くの事業者に参加していただきました。

情報発信については、県の公式 Instagram がなかったため、独自に Instagram を始めて、出店者を次々に告知していきましました。徐々にフォロワー数が増えていき、様々な事業者から社会実験を Instagram で紹介されるほどになりました。このことが、独自に Instagram を始めた狙いであり、社会実験の情報周知においても大きく寄与したと考えています。従来（県 HP、県 Twitter、広報誌、ラジオ、チラシなど）も活用しましたが、時代に応じた方法で情報発信したことが効果的であったと考えています（写真-4）。



写真－3 職員直営状況（設営・撤去・運営など）



社会実験のチラシ

キッチンカー			
QRコード	10:00	11:00	12:00
10:00	11:00	12:00	13:00
13:00	14:00	15:00	16:00
16:00	17:00	18:00	19:00
19:00	20:00	21:00	22:00
22:00	23:00	24:00	25:00
25:00	26:00	27:00	28:00
28:00	29:00	30:00	31:00
31:00	32:00	33:00	34:00
34:00	35:00	36:00	37:00
37:00	38:00	39:00	40:00
40:00	41:00	42:00	43:00
43:00	44:00	45:00	46:00
46:00	47:00	48:00	49:00
49:00	50:00	51:00	52:00
52:00	53:00	54:00	55:00
55:00	56:00	57:00	58:00
58:00	59:00	60:00	61:00
61:00	62:00	63:00	64:00
64:00	65:00	66:00	67:00
67:00	68:00	69:00	70:00
70:00	71:00	72:00	73:00
73:00	74:00	75:00	76:00
76:00	77:00	78:00	79:00
79:00	80:00	81:00	82:00
82:00	83:00	84:00	85:00
85:00	86:00	87:00	88:00
88:00	89:00	90:00	91:00
91:00	92:00	93:00	94:00
94:00	95:00	96:00	97:00
97:00	98:00	99:00	100:00



今回作成した Instagram

写真－4 情報発信

(3) 社会実験結果と成果

賑わいの社会実験の来場者数は延べ約 6,500 人となり、連日大賑わいとなりました。津駅東口通りの歩行者交通量は、実験前と比較し、平日のランチ時間帯（11 時～14 時）で約 4 倍となり、休日のイベント時間帯（10 時～14 時）では約 10 倍となりました（写真－5）。来場者用のアンケート結果からも（回答数 508）、キッチンカーや物販の出店について約 8 割が満足との回答で、このような社会実験の取組についても約 9 割が賛成との回答でした（図－5）。

キッチンカー等の利用者からは「次回はいつ?」「津駅とは思えない」「津駅前が明るくなった!」などの声があり、イベント参加者からは「子どもが大興奮でした!」「定期的に開催してほしい」などの声がありました（写真－6）。沿線住民の方からも「街が賑わうと元気が出てくる」「良い取組なので、来年以降もぜひ続けていってほしい」など取組について非常に好評でした。また、実験期間中は荷捌き場を一時変更していましたが、変更した荷捌き場に一般車両が駐車してしまい、一部で荷捌き作業の混乱があったものの、交通安全上の大きな問題もありませんでした。様々な団体と連携していく中で、県内だけでなく、複数の民間企業からも協力の申し出があり、連携が徐々に広がっていったことが賑わい創出に繋がったと考えています。

普段は閑散としている津駅前ですが、多くの方に改めて津駅のポテンシャルの高さを示すことができ、道路空間再編による賑わいの創出が可能であることがわかりました。さらに今回の成功体験を地域の方と共有できたことで、地域の方から「自信がついた」などの声も出てきています。社会実験後には、県内の複数の市町や他県から、様々な問い合わせもいただきました。

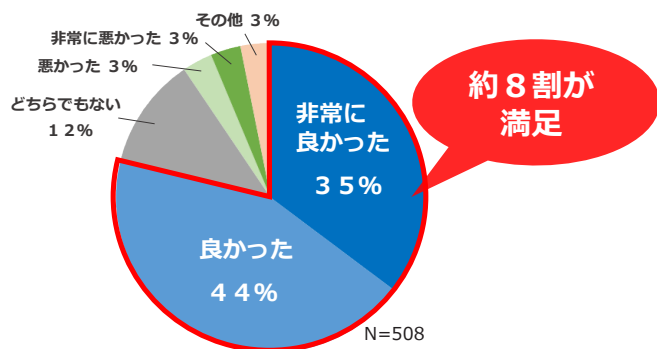


写真－５ 津駅前状況の比較

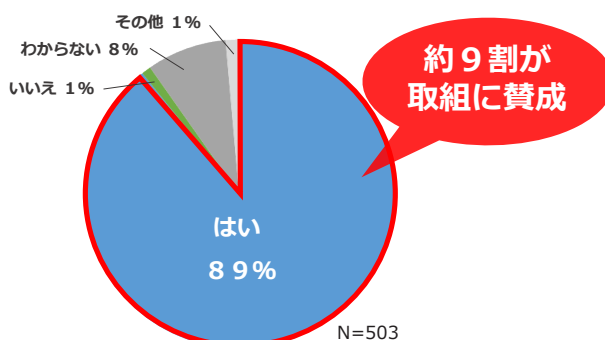


写真－６ 社会実験の状況

キッチンカー等の出店について



今後もこのような取組を続けた方が良いか



図－５ 来場者アンケートの結果

(4) 令和５年度の実施状況（速報）

令和５年度の賑わいの社会実験は１０月１１日（水）～１０月２２日（日）の１２日間実施し、昨年度同様に６車線から４車線に減少させ、キッチンカー等の出店やテーブル・イス等の配置をしました。今年度は、実験エリアを津駅東口通りだけでなく近隣の公園まで拡大し、さらに駅周辺にデジタルサイネージを複数台設置することで、面的な賑わいの創出や歩行者の滞留・回遊性の強化を目的としました。加えて、昨年度のアンケート結果を参考にキッチンカーや物販の出店数を増やし、土日のイベントをさらに充実させ、テーブル・イスの設置数も増やしました。その結果、来場者数は延べ約１２,０００人（対前年比１.８５倍）にのぼり、連日大いに賑わいました（写真－７、８）。アンケート結果（回答数６２７）から

もキッチンカーや物販の出店について約9割が満足との回答（昨年度約8割が満足との回答）で、土日のイベントについても約8割が満足との回答（昨年度約5割が満足との回答）となりました（写真－9、10）。滞在時間についても約1割の方が3時間以上（昨年度3割以上は約1%）滞在し、実験エリアを面的に広げることによって滞留・回遊性の強化を図れることが確認できました。



写真－7 令和5年度の社会実験の状況



写真－8 デジタルサイネージ



写真－9 公園の利用状況



公園での音楽ライブ



チョークアート



電動キックボード体験

写真－10 土日のイベントの状況

4. おわりに

令和5年度までに実施した社会実験の結果から、道路交通上の大きな問題がないことや道路空間活用のニーズ把握及び道路空間再編による賑わいの創出が確認できたと考えています。

今後は、社会実験でいただいた様々なご意見を参考にしながら歩道空間拡張の具体化を進めていき、将来的には三重県内で初となる歩行者利便増進道路（ほこみち）の指定や道路を活用したまちづくりを通して、津駅周辺の賑わいが日常的になることを願っています。